資料3

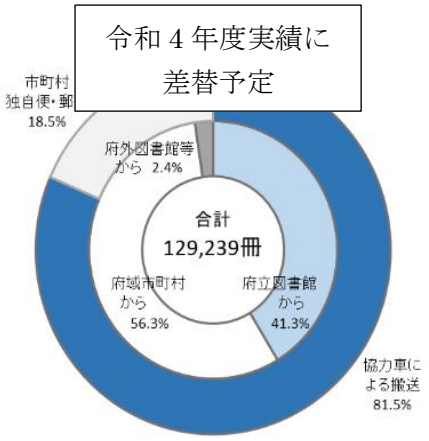
大阪府立図書館の活動評価 ― 第四期の総括と第五期への課題 ―

令和元年度から４年間を評価期間として取り組んできた第四期活動評価の最終年度となりました。１年目の２月から影響が出始めた新型コロナウイルス感染症は未だ収束の兆しがありませんが、２年度、３年度とは異なり、４年度は臨時休館することなく、利用者の皆さまのご協力のもと、感染対策を講じて開館を継続することができました。

第四期はほぼコロナ下での運営となったことから、当初設定した目標値等の見直しを余儀なくされた項目もありましたが、来館が難しい方へ必要とされる情報提供するべく、感染対策の観点もふまえてオンラインでの研修やSNS による情報発信等を実施しました。見直し分も含め、第四期の取組目標は概ね達成できたと考えており、詳細は「重点目標評価シート」「重点取組業務自己点検シート」に記載しています。

続く第五期はコロナ後のサービスのあり方が問われることを肝に銘じ、第四期を通じて培った手法を活かしつつ、府立図書館として継続しなければならない事業、および新たに検討すべき課題等を整理し、令和5年度からの第五期活動評価で取り組んでまいります。

基本方針１　府立図書館は、市町村立図書館を支え、大阪府全域の図書館サービスを一層充実させます。



元年度から準備を進めた大阪府域図書館グループウェア（以下「グループウェア」）は、１年間の試行を経て３年度から本格実施しました。従来FAX で行われていた市町村立図書館と府立図書館との定型の連絡・申請がグループウェアを使ったオンラインに切り替わったほか、簡便なアンケート機能や掲示板機能等を用いた情報交換でも活用されています。今後、市町村立図書館からの意見も踏まえてさらなる利活用を図り、府域図書館間の情報共有を進めていきたいと考えています。

府域図書館職員等を対象とした研修については、リアルタイムに場と時間を共有できる集合形式と動画配信による遠隔形式の両方の利点を生かすため、２年度から実施した録画配信に加え、４年度はウェブ会議システムを利用してリアルタイムに配信するオンライン開催や、集合形式で開催しつつリアルタイムで配信を行うハイブリッド形式での開催にも取り組み、好評でした。感染防止対策の観点だけでなく、研修内容に応じた効果的な研修手法の選択という観点からも研修事業の幅を広げることができました。

（次期に向けて）

グループウェアや遠隔研修の取組みを通じ、府域図書館との情報共有を行うツールを整備することができました。第五期では、これらのツールも活用しながら、各図書館におけるサービス事例など、府域図書館の運営に資する、より広範な情報共有の促進を目標とします。

基本方針２　府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が正確な情報・知識を得られるようサポートします。

「紙・電子媒体資料統合提供調査チーム」では、電子媒体資料とその提供に関する情報収集を行い、調査報告書を作成しました。

また収蔵スペースの確保のため、複本資料を精査のうえ整理し、他機関へ譲渡の声掛けをしました。

利用者向けのサービスでは、引き続き豊富な参考資料を活用したレファレンスサービスを提供し、当館ホームページやレファレンス協同データベースに掲載しました。

2 年度に開始したオンラインによる視覚障がい者への対面朗読サービスは定着し、利用も増加しています。

ビジネス支援サービスでは、募集人数を絞り、会場での感染拡大防止にも努めながら、18 回のビジネスセミナーを実施しました。セミナー会場では、テーマに合わせて資料展示を行い、さらに理解を深めていただくための工夫も試みました。

【ビジネス資料展示】

（次期に向けて）

すべての府民が読書活動を通じて文字・活字文化の恵沢を享受できることをめざし、活字による読書や来館が困難な利用者へのサービスの提供を充実させるとともに、電子媒体資料についての情報収集を継続して行います。また都道府県立図書館の役割である保存図書館として資料を良好な環境で保存するため、書庫の整備を進めます。

令和 3 年の著作権法改正により、5 年度から施行される図書館等公衆送信サービスについて実施可能性を調査し、府内市町村図書館に情報を共有します。

基本方針３　府立図書館は、府域の子どもが豊かに育つ読書環境づくりを進めるとともに、国際児童文学館の機能充実に努めます。

【「国際児童文学館所蔵資料にみる
絵本史にかがやく名著たち」展チラシ】

国際児童文学館とこども資料室が毎年実施している講座「講演と新刊紹介」は会場開催と動画配信により実施しました。3 年ぶりに集合形式で開催することができ、好評でした。

「大阪府読書バリアフリー計画」は 2 年目となり、公立図書館と学校との合同研修「子どもの読書活動をめぐる新たな動きについて～GIGA スクール構想から読書バリアフリーまで～」を開催したほか、研修参加者には「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界」と題した展示も見学していただきました。

学校支援では、感染症対策の影響でさらに府立学校への協力貸出冊数が落ち込んだ一方で、学習指導要領の改訂を受けた調べ学習や探究の授業を進めるための、図書館活用に関する見学や講座の問合せが増えるなど、学校支援の新たな形がうかがえる状況が生じつつあります。

国際児童文学館は、「国際児童文学館所蔵資料にみる 絵本史にかがやく名著たち」として近代日本の黎明期の絵本から、大正期の絵本・絵雑誌、戦時下の絵本まで日本の子どもの本の歴史を彩る貴重な本の展示を行いました。中でも、「日本一ノ画噺（にっぽんいちのえばなし）」は国内で国際児童文学館のみ所蔵している特製本棚とともに全35冊を展示し、アンケートでは「貴重な本がきれいな状態で保存されていることにおどろいた」「授業で話を聞いた本を実際に見られた」「昔読んだ本を見られてうれしかった」等の感想をいただきました。

（次期に向けて）

第四期では、「講演と新刊紹介」講座の動画配信を開始し、継続の希望が多いため今後も会場開催と動画配信のハイブリットで開催することになりました。また、府聴覚支援学校との連携も開始することができました。

第五期では、支援学校との連携をさらにすすめるとともに、国際児童文学館が所蔵する貴重な資料の一層の活用と広報に努めます。

基本方針４　府立図書館は、大阪の歴史と知の蓄積を確実に未来に伝えます。

「おおさかポータル」は、この4年間に、データ登録・編集画面の管理機能の改修を段階的に進め、令和4年度は約3,000件（予定）のデータ作成を行い、累計約80,000件（予定）となりました。また、府域図書館、国立国会図書館、大学等、外部機関6件（12月末現在）とのデータ連携に取組みました。利用状況としては、令和4年度（12月末現在）は前年度比40％増の約140,000件のアクセスがありました。

電子資料検索システム「おおさかeコレクション」は、4年度には一枚刷り物貼込帖や府指定文化財「オランダ記念貨幣誌」などの貴重図書を追加予定です。第四期中に、貴重図書未公開分、特別コレクション「石崎文庫」「三井文庫」「森田文庫」「近世活字本」を追加し、登録数は中央図書館資料とあわせて約50,000点となりました。令和4年度（12月末現在）は全体の検索回数約300,000回、各コンテンツ閲覧回数の合計は約35,000回と広く利用されています。

【「古文書 はじめの一歩！」第1回】

指定管理者との資料展示、講演会、古文書講座等の共同企画事業は、感染拡大防止策を講じつつ取り組みました。また2年度末にYouTube公開した「古文書 はじめの一歩！」（全3回）は、計約20,000回視聴されています。

（次期に向けて）

非来館型利用促進の一環として、資料のデジタル化を着実に進め、また行政資料等のデジタル資料の収集を継続し、デジタルコンテンツの拡充と認知度向上に努めます。中でも第五期では、2025 年日本国際博覧会関係資料を積極的に収集したいと考えています。

基本方針５　府立図書館は、府民に開かれた図書館として、地域の魅力に出会う「場」と機会を提供します。

【講演会関連資料展示】

両館とも感染拡大防止に留意しつつ、

中央図書館の生涯学習事業では、多様な外部機関と連携をはかりながら展示や講演会を実施することができました。展示では、来場者にとってわかりやすい展示レイアウトや関連図書の見せ方を工夫しながら、じっくりご覧いただけるスペースの提供に努め、また、講演会では、魅力あるテーマに沿った内容の充実を図ることにより、12月末時点においての満足度は平均値として80％を超える結果となりました。

中之島図書館では、指定管理者との共同企画によるビジネス講座や連動した資料展示など新たな試みなど工夫し、参加者の満足度も目標値を上回る結果となりました。書庫新築の工事も 11 月に始まりました。騒音や振動などの影響も考えられますが、最小限に抑えられるよう工夫していきたいと考えています。

（次期に向けて）

外部機関と連携をさらに深めつつ、「利用者様にどのような学びを提供することができるのか」「未利用者の方にも気軽に利用いただくための工夫」等を検討していきたいと考えています。より多くの府民に図書館の魅力や活動を届けられるよう、様々な媒体を活用した情報発信に努めます。